

2018年3月4日

福音書からのメッセージ

イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。（ヨハネによる福音書2章22節）

わたしたちはイエス様に対して、様々なイメージを抱いていると思います。優しい、慰めてくれる、寄り添い歩んでくれる、あたたかいなど。しかし今日の福音書のイエス様は、ちょっと怖い一面を見せています。縄で鞭をつくり、神殿から商人を追い出していくその姿は、わたしたちが思い描くイエス様とは少し違うかもしれません。なぜイエス様は、そのようなことをしなければならなかったのでしょうか。

神殿には牛や羊や鳩を売っている人たち、そして両替をしている人たちがいました。彼らはその仕事によって利ザヤを受け取っていたかもしれませんが、神殿には必要な商売でした。遠くから神殿に来る人たちにとって、犠牲のための動物を現地で調達できることは、大変ありがたいことでした。もしその商売がなければ、犠牲のための動物を連れて、何日もかかる道のりを歩かなければなりませんでした。

両替も大事です。当時人々が使っていた貨幣は、ユダヤを支配していたローマ帝国のものでした。その貨幣にはローマ皇帝の像が刻んであり、偶像崇拝を禁止しているユダヤ人が神殿におささげすることなど、もってのほかでした。だから神殿で使うことのできるユダヤの通貨に両替することは、人々にとってとても大切な事でした。

それではなぜ、イエス様は商売人を追い出したのでしょうか。それは神殿のあり方が、神さまの思いとは違ったからです。人々は神殿で祈ります。神さまにごめんなさいやありがとうと言うために、犠牲をささげ、献金をします。しかし神さまが目を



留めようとされたのは、神殿に行くことすらできない、ささげものをしたくてもできない、神さまに目をあげることもできないような人たちだったのです。

イエス様はこの出来事を通して、伝えて下さいます。神さまは、神殿にしかいないのではありません。神さまは、人々の間にいるのです。イエス様はまことの神殿として、わたしたちの間に遣わされたのです。

商売人たちは、正しいことをしていると思っていました。しかしその行為は、人々を神さまから遠ざけるものであり、神さまのみ心とは違うものでした。そのことをイエス様は怒ったのです。

わたしたちはどうでしょうか。教会の中にしか神さまを認めず、周りの人たちとの間に壁をつくってしまっていないでしょうか。神さまを私物化し、他人を受け入れないでいることは、神さまの願うことではないのです。

わたしたちの行いが、神さまのみ心に合ったものとなりますよう、お祈りいたしましょう。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

Tel/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>